「学び」イベント情報 募集中!!

研究者の皆様が市民へ向けて行なっている公開講座やシンポジウム等の情報提供をお待ちしております! 掲載料は無料です。

11 NOV

市民公開講座 No.328「大学生の学びの実践：地域起業家との連携プロジェクトを事例に」
11月27日(金) 18:00▶19:30 無料 申込不要
講 師 亀井 あかね（東北工業大学ライフデザイン学部講師）
場 所 東北工業大学一番町ロビー 4階ホール 定 員 60名
主催者 東北工業大学 問合先 TEL 022-723-0538
URL http://www.tohtech.ac.jp/

東北大学サイエンスカフェ 第122回：土を考える ～国際土壌年に寄せて～
11月27日(金) 18:00▶19:45 無料 申込不要
講 師 南條 正巳（東北大学農学研究科教授）
場 所 せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア
主催者 東北大学 問合先 TEL 022-217-5132
URL http://cafe.tohoku.ac.jp/

農・環境イノベーション特別講座（2）「グローバリゼーションと農業～世界の多様な農業ビジネス～」
11月28日(土) 13:00▶14:30 無料 要申込
講 師 川島 滋和（宮城大学准教授）
場 所 仙台市市民活動サポートセンター 6階セミナーホール 定 員 60名
主催者 学都仙台コンソーシアム・宮城大学 問合先 TEL 022-377-8693
URL http://www.myu.ac.jp/site/renkei/gakutkoz2015.html

農・環境イノベーション特別講座（3）「生き物をはぐくむ農業～トンボやドジョウにやさしい水稲栽培～」
11月28日(土) 15:00▶16:30 無料 要申込
講 師 神宮字 寛（宮城大学准教授）
場 所 仙台市市民活動サポートセンター 6階セミナーホール 定 員 60名
主催者 学都仙台コンソーシアム・宮城大学 問合先 TEL 022-377-8693
URL http://www.myu.ac.jp/site/renkei/gakutkoz2015.html

ロボットの協働
11月28日(土) 17:00▶18:30 無料 要申込
講 師 岩本 正敏（東北学院大学）
場 所 仙台市市民活動サポートセンター 6階セミナーホール 定 員 80名
主催者 学都仙台コンソーシアム・東北学院大学 問合先 TEL 022-264-6340
URL http://www.gakuto-sendai.jp/

12 DEC

私たちはどこを歩いているか：現代日本社会を「交換」のあり方から読み解く
12月 5日(土) 13:00▶14:30 無料 要申込
講 師 津上 誠（東北学院大学）
場 所 仙台市市民活動サポートセンター 6階セミナーホール 定 員 80名
主催者 学都仙台コンソーシアム・東北学院大学 問合先 TEL 022-264-6340
URL http://www.gakuto-sendai.jp/

周縁から中心へ、そして中心なき周縁へ― Muriel Spark の The Go-Away Bird を読む
12月 5日(土) 15:00▶16:30 無料 要申込
講 師 遠藤 健一（東北学院大学）
場 所 仙台市市民活動サポートセンター 6階セミナーホール 定 員 80名
主催者 学都仙台コンソーシアム・東北学院大学 問合先 TEL 022-264-6340
URL http://www.gakuto-sendai.jp/

「東北開発三法」とは何であったのか？
12月 5日(土) 17:00▶18:30 無料 要申込
講 師 仁昌寺 正一（東北学院大学）
場 所 仙台市市民活動サポートセンター 6階セミナーホール 定 員 80名
主催者 学都仙台コンソーシアム・東北学院大学 問合先 TEL 022-264-6340
URL http://www.gakuto-sendai.jp/

文字で学ぼう！何を作ろう？
12月12日(土) 13:00▶14:30 無料 要申込
講 師 妹尾 知昭（仙台白百合女子大学）
場 所 仙台市市民活動サポートセンター 6階セミナーホール 定 員 小学3年以上と保護者30組
主催者 学都仙台コンソーシアム・仙台白百合女子大学 問合先 TEL 022-374-4475
URL http://www.gakuto-sendai.jp/

東北大学サイエンスカフェ 第123回地下鉄開業記念スペシャル：近未来の交通システム ～「地方創生特区」青葉山での実証実験～
12月19日(土) 13:30▶16:00 無料 要申込
講 師 長谷川 史彦（東北大学未来科学技術共同研究センター教授）他
場 所 東北大学未来科学技術共同研究センター [NICHe] 定 員 60名
主催者 東北大学 問合先 TEL 022-217-5132
URL http://cafe.tohoku.ac.jp/

※登場者（講師、演者、担当者）については敬称略

第31回 名著への旅

『期待と回想』
鶴見俊輔 著
朝日文庫

（2008年1月11日 初版発行）

今年7月20日に亡くなった思想家、鶴見俊輔が対話を通じて語り起こした自伝である。晶文社より1997年出された上下巻をまとめて文庫化したものである。

鶴見俊輔は多くの著作を残した。かれは純化し、体系化された「思想」を回避する「ニセ科学」を探求しようとした。鶴見の仕事の全体像は曖昧で、断片的で、場当たり的であり、企図した通りの「不定形」さを獲得しているかもしれない。しかしそこには「現状の逆を突く」「確定したものの意味をズラす」という方法が貫徹されている。いわば「不定形の体系」へと到達しているのだ。

656ページと分厚いが、ゆるやかな語り口のため比較的読みやすいように思う。鶴見俊輔の導入として、また筑摩書房から出ている全集の副読本としても、優れている。

（寺）

「文字・活字文化の日」企画展
第11回 文字・活字とのふれあいDay 開催のお知らせ
QRコードからアクセス！
お問い合わせ 022-288-5555 sasaki@sasappa.co.jp
笹氣出版印刷株式会社では毎年「文字・活字文化の日」にちなみ、皆様に広く文字・活字や印刷のことにふれていただけるイベントを開催しております。今年は特別企画「東北6県観光パンフレット大集合！」もあります。ぜひ奮ってご参加ください。
日程：2015年10月23日（金）・24日（土） 9：30～16：00
場所：笹氣出版印刷株式会社・笹っぱ活字館
入場無料

学びの庭におじゃまします

次号テーマ：シリーズ「東日本大震災」【5】 ―伝える・遺す―
2016年1月5日発行予定

「気」になる「氣」…当社は言葉を組版する職業として、漢字の本来の成り立ちである「本字」を大切にしたいという思いがあり、社名に使われる本字の「氣」を使用することでその思いを表しています。

応募先／問い合わせ先
〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町8番45号
笹氣出版印刷株式会社内「まなびのめ」編集部
FAX 022-288-5551
TEL 022-288-5555
（FAXは24時間受付 電話受付時間10:00～16:00 土・日・祝日除く）
manabinome@sasappa.co.jp

学術の世界と市民をつなぐ情報誌「まなびのめ」第30号／発行日2015年10月5日
企画・編集 笹氣出版印刷株式会社「まなびのめ」編集部／発行 笹氣出版印刷株式会社
「まなびのめ」編集部 川又進 佐藤曜 齋藤麻実 三上志穂 小塙理恵子
オブザーバー：笹氣義幸 只野俊裕 寺田征也(明星大学)／協力：株式会社市瀬 有限会社阿部正志製本

©笹氣出版印刷株式会社 無断で複写、複製、転載することを禁じます。

この印刷物はグリーン基準に適合した印刷資材を使用して、グリーンプリンティング認定工場が印刷した環境配慮商品です。用紙は責任をもって管理された森林から作られたFSC認証紙を使用し、インキは環境にやさしい植物油インキを使用しています。

FREE ¥0 ご自由にお持ち帰りください。

図書カード懸賞付クイズあります

仙台市情報・産業プラザ 学術の世界と市民をつなぐ情報誌

まなびのめ

学びの庭におじゃまします

装い

化粧と被災地での振る舞いに通じるものは

東北大学大学院文学研究科 教授
（心理学）
阿部 恒之 先生

百年前の仙台は日常着の全国的発信地だった

東北生活文化大学 家政学部 准教授
（染色学）
川又 勝子 先生

〈行ってみよう！「学び」の場所へ〉
- これからの主な「学び」イベント39件掲載!
- 「学び」イベントに行ってきました
- 名著への旅 『期待と回想』（鶴見俊輔）
- Voice Park

季刊誌 第30号 2015.10

Web版は随時更新中!
まなびのめ 検索
http://www.manabinome.com/

発行／笹氣出版印刷株式会社

これからの主な「学び」イベント

有料 無料 要申込 申込不要
▲このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。

ここに掲載する情報は、各研究・教育機関や施設が公開している情報を基に掲載していますので、当社の責任で開催を保証するものではありません。日時、内容等に変更がある可能性がありますので、詳しくは各問合先へご確認ください。

有料・要申込の場合の料金や申込方法など詳細は **Web版に掲載**しております。ぜひご覧ください。

定期開催

トワイライトサロン「天文台長土佐誠の宇宙が身近になる話」
毎週土曜日 16:50▶17:30 無料 申込不要
講 師 土佐 誠（仙台市天文台長）他
場 所 仙台市天文台 オープンスペース
主催者 仙台市天文台 問合先 TEL 022-391-1300
URL http://www.sendai-astro.jp/

開催中

企画展「鉄道の復興 その時、今、あした」第Ⅱ期 鉄路の復旧と思いをつなぐ町づくり―JR石巻線と女川町、JR仙石線と東松島市、JR常磐線と山元町・新地町―
～11月7日(土) 10:00▶16:00 無料 申込不要
場 所 東北福祉大学ステーションキャンパス館3階・鉄道交流ステーション
主催者 東北福祉大学・鉄道交流ステーション 問合先 TEL 022-728-6612
URL http://www.tfu.ac.jp/rmlc/

福島美術館由来考 ～仙台の起業家・福島禎蔵が遺したモノ～
～11月23日(月・祝) 9:00▶16:30 有料 申込不要
場 所 福島美術館
主催者 社会福祉法人共生福祉会 福島美術館 問合先 TEL 022-266-1535
URL http://www.fukushima-museum.jp/

10 OCT

歴史姉妹都市締結40周年記念 特別展「宇和島伊達家の名宝 ―政宗長男・秀宗からはじまる西国の伊達」
10月9日(金)～11月23日(月・祝) 9:00▶16:45 有料 申込不要
場 所 仙台市博物館 （入館は16:15まで）
主催者 仙台市博物館 問合先 TEL 022-225-3074
URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum/

「仙台・江戸学」第9期「伊達政宗の騎馬像」
10月15日(木) 13:30▶15:00 有料 要申込
講 師 日下 龍生（仙台郷土研究会理事）
場 所 大崎八幡宮 祭儀棟 定 員 100名
主催者 「国宝大崎八幡宮 仙台・江戸学」実行委員会 問合先 TEL 022-234-3606
URL http://www.oosaki-hachiman.or.jp/edogaku/

白石市医師会 市民公開講座「認知症の情動療法」
10月20日(火) 18:30▶19:30 無料 申込不要
講 師 佐々木 英忠（仙台富沢病院）
場 所 しんきんホール（仙南信用金庫本店）
主催者 白石市医師会 問合先 TEL 0224-25-0882
備 考 〈第23回白石市生涯学習フェスティバル参加事業〉

市民公開講座 No.324「屋敷林のある景観の魅力・イグネの価値とは」
10月23日(金) 18:00▶19:30 無料 申込不要
講 師 不破 正仁（東北工業大学工学部建築学科講師）
場 所 東北工業大学一番町ロビー 4階ホール 定 員 60名
主催者 東北工業大学 問合先 TEL 022-723-0538
URL http://www.tohtech.ac.jp/

東北大学リベラルアーツサロン 第37回：ロシア革命における『社会的』ファクター
10月23日(金) 18:00▶19:45 無料 申込不要
講 師 浅岡 善治（東北大学大学院文学研究科准教授）
場 所 東北大学片平キャンパス北門会館2F エスパス
主催者 東北大学 問合先 TEL 022-217-5132
URL http://cafe.tohoku.ac.jp/

筋肉のふしぎ ―元気にすごすための、筋肉の活用術―
10月24日(土) 13:00▶14:30 無料 要申込
講 師 西澤 哲（東北文化学園大学）
場 所 仙台市市民活動サポートセンター 6階セミナーホール 定 員 60名
主催者 学都仙台コンソーシアム・東北文化学園大学 問合先 TEL 022-233-3451
URL http://www.gakuto-sendai.jp/

※登場者（講師、演者、担当者）については敬称略

学びの庭におじゃまします

「まなびのめ」の今年の秋は「装いの秋」。
前々から氣になっていた「化粧と心理学」のお話を、東北大学の阿部恒之先生からお聴きしました。
この秋、男性も臆せず、化粧に向きあってみてはいかがでしょうか。

化粧と被災地での振る舞いに通じるものは

大きく変化した「化粧」のイメージ

化粧を研究していると、「なぜ男性は化粧をしないのですか」と聞かれることがよくあります。私の専門は化粧史ではなく心理学なのですが、これは化粧の心理学にとっても重要な問題だと思っています。

化粧の歴史を振り返ると、ヨーロッパでは古代から、体に油を塗るなどの「慈しむ化粧（スキンケア）」と、印象を美化する「飾る化粧（メーキャップ）」を区別してきました。たとえば古代ギリシャでは、スキンケアはコスメティケ・テクネー、メーキャップはコモティケ・テクネーと呼んでいました。古代エジプトでは、強い日差しの下で働くピラミッド建設従事者に、マッサージオイルを支給していました。スキンケアは健康に直結した習慣です。公園の鳩ですら、水浴びをするくらいです。

一方、メーキャップのほうは健康とは別の、見ばえのお話です。それゆえ昔から旗色が悪く、「虚飾」・「偽り」といったよくないイメージもありました。私が大学を卒業した 1985 年当時ですら、そういう負のイメージがありました。

さて私は卒業後、資生堂に入社し、化粧の心理的影響の研究を始めました。そして化粧が精神的健康に寄与することがわかってきました。それまで心理学会で化粧を題材とした研究が発表されることはほとんどありませんでしたが、次第に化粧の研究が数多く発表されるようになりました。今や化粧は一般的な研究対象となり、多くの大学の卒業論文で人氣のテーマとなるに至りました。

東北大学大学院文学研究科　教授
専門＝心理学

阿部　恒之 先生

《プロフィール》（あべ・つねゆき）1961 年新潟県生まれ。東北大学文学部卒業。同大学院文学研究科博士課程修了。博士（文学）。資生堂ビューティーサイエンス研究所、東北大学文学部助教授を経て、2010 年より現職。著書に『ストレスと化粧の社会生理心理学』（フレグランスジャーナル社）、共著に『防災の心理学』（東信堂）、『化粧セラピー』（日経 BP 社）、『大災害と犯罪』（法律文化社）など。

また、オーストラリアなど南半球から「子どもにも紫外線対策を」という声が上がり、日本でも 1990 年代から紫外線の害が注目されるようになり、今では日焼け止めを塗るなどのスキンケアは常識です。日本の母子手帳も、赤ちゃんの日光浴を促すことをやめ、「外氣浴」を推奨しています。日本でも、スキンケアとメークの概念が分かれてきたと言えるでしょう。

今ではスキンケアの重要性が認識されるようになっただけでなく、「外面」と「内面」が実は密接に関係していることや、化粧が人を健康にすることも広く知られるようになりました。高齢者、認知症患者、障害者などが化粧で元氣になる、「化粧療法」という言葉も一般的になっています。

被災地に見られた美しい振る舞い

私が所属するいくつかの学会の中に、「日本感情心理学会」と「日本顔学会」があります。ともに一昨年（2013 年）、東北大学で全国大会が開かれました。普通は 1 年に 2 つも大会をお引き受けすることはありませんが、東日本大震災の被災地にいくらかでも経済的効果を、というのが双方の学会の意向です。そこで思い切って 2 つともお引き受けしました。折角なので、大会の前日には被災地を巡る慰霊行事を入れさせてもらいました。

私は今、災害研究に力を入れています。2010 年、タイからの留学生を担当したことがきっかけです。タイは洪水の多い国であり、スマトラ島沖地震による津波被害が繰り返し発生してきたという歴史があります。2011 年の 2 月、その留学生とタイの津波被災地を訪問調査し、帰国して研究をまとめている最中に東日本大震災が起きたのです。

東日本大震災の後、資生堂の社員が避難所に入ってボランティア活動を行ったことは、あまり知られていないかもしれません。たくさんの社員が、入浴も化粧もできないでいた被災者のために、ドライシャンプーやハンドクリーム・口紅・眉墨などを持って現地に入りました。

出発の直前、私から一つの提案をさせていただきました。それは、「カウンセリング・マインド」の基礎講習をさせてほしいということです。東北の被災者は遠慮がちです。正式なカウンセラーにはかえって遠慮することがあるかもしれませんが、ハンドマッサージや髪をケアしてもらっている時、リラックスして本音で語りかけて下さるかもしれません。心の準備がないと、悲しみを含んだ本音を受け止めきれず、ボランティアのほうがダウンしてしまう可能性が懸念されました。そこでカウンセリングに造詣の深い先輩の研究者にお願いして、お話を聞く心の準備・「カウンセリング・マインド」の講習を行っていただきました。このボランティアは、単に衛生や美容にとどまらず、心のケアとしての貢献度も高かったのではないでしょうか。

人は日々、朝、メークをすることで自らを励まし、夜、丁寧にメークを落としてスキンケアすることで自らを癒します。化粧とは、日常生活に組み込まれた「感情調整装置」なのです。これが震災のような非常時にも、内面を支える効果があることは明らかでしょう。

私の関心は、震災をきっかけに、外見の美しさから振る舞いの美しさへシフトしました。例えば電車待ちで列を作る行為は好ましいマナーですし、災害時、給水車の列に整然と並ぶのは究極のマナーと言えるでしょう。東日本大震災では東北人の落ち着いた振る舞いが世界から絶賛されました。しかし「次」の大災害がもし首都圏などの大都市部で発生したら、人々は東北人のように振る舞えるでしょうか。

また私たちは、被災地以外での震災ガレキの受け入れ等をめぐって、放射性物質への懸念から激しい議論が巻き起こり、被災者を二重に傷つけた事実も忘れてはなりません。避難所での心のケア、被災者の振る舞い、被災地の外での葛藤など、東日本大震災の経験を「次」に活かすための検証は、まだ道半ばだと言うべきでしょう。

日常的で小さな物事にも大きな研究テーマが

私は卒論のテーマとして、日本ではまだ珍しかった「顔の知覚」研究を選びました。人間は、他の対象に比べて、顔を覚える力が格段に優れています。何十年ぶりかで再会した同級生の顔を見分けることができるほどです。しかし顔写真の上下を逆さにすると、逆に記憶力が極端に低下します。このような、顔という対象の特殊性の秘密を明らかにするための突破口として、私は自動車のフロントビューや蝶の目玉模様のような、顔ではないが顔のように見えるものを選びました。そして、顔らしさが増すほどに顔独特の知覚特性も強くなる傾向があることを見出しました。顔と他の対象は別物ではなく、顔らしさによって「地続き」になっている、そう結論しました。

さて時期を同じくして、資生堂は化粧の心理学的影響を含めた化粧の科学を総合的に行う「ビューティーサイエンス研究所」を発足させようとしていました。テーマがマッチしたことが幸いし、資生堂ビューティーサイエンス研究所に就職することができました。

この研究所には、様々な専門を持つ人々が 100 名ほど集まりました。リラクセーション効果のあるスキンケア商品の開発などに携わりましたが、リラックスについて考えるということは、ストレスについて考えることに他なりません。それでストレスを研究対象とし、国の助成を受けることもできました。リラックスする香りの開発、アロマコロジー研究も行いました。しかし年齢とともに、研究ではなく管理の仕事が増えることになりました。「研究の現場から遠ざかりたくない」という思いが増し、古巣の東北大学の教員公募に応募し、その結果、大学の教員となり、今日に至ったわけです。大学に来ても、研究や教育以外の「仕事」がたっぷりあったのは誤算でしたが（笑）。

最初の「なぜ男性は化粧をしないのか」という疑問に戻ると、大きな流れとしては男性の化粧も復権しつつあるように思えます。メークではなくスキンケアであれば男性も意外としていますし、テレビではメークをしたマツコ・デラックスが大活躍しています。また化粧ではありませんが、男性も窮屈なネクタイをします。何の実用性もありませんが、「外面」に大きく関わっていますし、「内面」に及ぼす影響も小さくありません。

化粧という、一見日常的で小さな物事の中にも、このように歴史や心理の深いテーマが潜んでいます。蝶の目玉模様、ストレス、香り、そして震災。このような、全く関係のなさそうなことも、突き詰めてゆくとつながりが見えてきます。今これをお読みの皆さんも、ご自分の周囲で氣になることがあれば調べてみて、それをきっかけに学びの世界を広げていただければと思います。「学びの芽」は身のまわりのすぐそばにあるのです。

（取材＝2015年8月5日／東北大学川内キャンパス　文科系合同研究棟3階　阿部教授室にて）

懸賞

図書カードを当てよう！ まなびめクイズ　正解者の中から抽選で3名様に図書カード1000円分をプレゼント

Q.1　飾る化粧をメーキャップということに対し、慈しむ化粧を何という？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。川又勝子先生の記事もご覧ください。

応募方法　はがき、FAX、E-mail のいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え２つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。

※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2015年11月30日 当日消印有効

学びの庭におじゃまします

「装い」といえば「服飾」、「服飾」といえば「東北生活文化大学」、と考える方も多いでしょう。
その中で、仙台の特産品として知られた常盤紺型染について研究し、
現代・未来に生かしたいとお考えの川又勝子先生から、お話を伺いました。

百年前の仙台は日常着の全国的発信地だった

忘れられた仙台の特産品

今から40年ほど前の昭和50年（1975年）頃、仙台の石名坂にあった「名取屋染工場」の蔵で大量の型紙が見つかりました。発見した佐々木邦子さんがお父様に尋ねたところ、それが明治から昭和前期にかけて広く知られた「常盤紺型染（ときわこんがたぞめ）」の型紙であることが分かったのです。

500枚以上の型紙が見つかりましたが、特に多かったのは絣（かすり）と絞り染めの柄でした。絣は本来、糸を染め分けて柄を織り出すもので、大島紬（つむぎ）などが有名です。また絞り染めは生地の一部を糸で縛り、その部分が染料で染まるのを防いで柄を表現します。常盤紺型染は、こうした手のかかる技法による柄を型染めで再現・量産した、明治時代の「新技術」だったのです。

型紙には使い込まれた跡があって、実際に染色に用いられたことが分かります。民藝運動の提唱者である柳宗悦（やなぎむねよし）は昭和の初めに仙台を訪れ、女性たちの多くが絣模様を型染めした着物を着ている、と書き記しました。

ところが現在、常盤紺型染の着物はほとんど残っていません。急速に洋装化が進み、特に、第二次世界大戦後は和服を着ることが少なくなり、常盤紺型染が晴れ着ではなく普段着や作業着といった日常着だったため、古くなったものは布地として転用され、使い切られて最後は廃棄されてしまったためだと考えられていますが、残念なことです。日常着とはいえ当時は布地そのものが貴重で、現代の私たちが服を買う感覚とは全く違っていたのです。

常盤紺型染の特徴は、第一に柄の種類が豊富なことです。絣や絞り以外にも様々なデザインの型紙が残されています。また染め抜いた模様の白さが他の型染めよりも鮮やかで、にじみが少ないことも大きな特徴です。比較的廉価だったため、庶民にも手の届く美しい柄入りの新品生地として、北海道から関東地方にかけて広く受け入れられました。

仙台の昔の写真を見ても、人々が着ている和服が常盤紺型染なのか、それとも本来の絣や絞り染めなのかは、残念ながら判断できません。しかし今から百年ほど前、仙台が日常着の一大産地となって、庶民の多くが常盤紺型染に親しんでいたことは確かなのです。袴（はかま）の一級品として今も有名な仙台平（せんだいひら）と比べると、常盤紺型染はまさに「忘れられた仙台の特産品」だと言えるでしょう。

県南の白土が常盤紺型染を生んだ

常盤紺型染を開発し、仙台で広めたのは「最上家」でした。当主が明治期に書き残した、「履歴書」と題する文献が残っています。初代の最上忠右衛門（ちゅうえもん）は、江戸時代の文政9年（1826年）、今の秋田県横手市に生まれました。新たな染色の技法を開発し、明治20年（1887年）に仙台に移って染め工場を開きます。その技法を積極的に広めたことから、仙台の多くの染め工場で常盤紺型染が作られました。

当時の日常着は主に木綿です。ただし東北地方は冷涼で綿花の栽培が難しかったため、原料となる綿糸は他の地域から仕入れていました。

普通の反物の幅はおよそ36 cmで、これを「並幅」と言います。常盤紺型染の型紙文様の幅（長辺）がこの並幅で、全体は今のA3サイズくらいでした。型紙には和紙を3、4枚重ねて柿渋で張り合わせ、乾燥し、燻煙された渋紙が用いられました。これに細い彫刻刃を当てて模様を彫り出して行くのですが、柄によっては鋼（はがね）で作った、微細なクッキーの型抜きのような道具も用いられました。また型紙を丈夫で扱いやすいものとするために、「糸入れ」という補強を施します。

常盤紺型染に用いられた染料は藍でした。藍甕（あいがめ）の中に浸して染めるのですが、その前に、型紙を用いて柄を付けます。白い反物の上に型紙を当て、穴の部分に糊を置き型紙を繰り返しずらして表に糊を付け終えたら、今度は裏に、表の柄に合わせて反転させた型紙で糊を置いていくのです。

この糊は米などの穀物から作ることが多かったのですが、常盤紺型染は、白土から糊を作る技法が確立されたことで多量の染め物の生産が可能になりました。この「土糊（つちのり）」は付着力が強く、染色を防ぐ力に優れていたため、柄の部分に白がきれいに残るのです。土糊を作るのに適した白土が、宮城県の南部で多く採れたことも、産地としての仙台の発展につながりました。

染め上がった反物は糊と余分な染料を水で落とし、乾かして出荷されます。デザインする、型を彫る、糊をつける、染めるなどの工程にはそれぞれ専門家がいて、仕事は分業で進められました。型紙の彫りを、遠く会津や伊勢に注文したという記録も残っています。

やがて紺色を染めるのに藍以外の染料が用いられるようにもなり、現在では様々な色と柄の常盤紺型染が作られています。これによって、名称も単に「常盤型」と呼ばれたりするようになります。常盤紺型染を広めた最上染工場は廃業しましたが、その資料は一括して仙台市に寄贈されました。およそ500枚の型紙と、数多くの染め見本が仙台市博物館に所蔵されています。名取屋染工場のものと合わせて、これだけ大量の絣と絞り柄の型紙が残っているのは全国的に見ても仙台だけです。しかし着物自体はやはり仙台市博物館にもなく、2012年に仙台市歴史民俗資料館の企画展で展示された、仙台市及び個人所有の着物が残されているだけです。

常盤紺型染を未来につなぐ

名取屋染工場の蔵で型紙を発見した佐々木邦子さんは、高名な染色工芸家である芹沢銈介（せりざわけいすけ）の指導を受けて「型絵染」を学んでおられました。常盤紺型染の型紙を自ら複製して再現に成功し、現在は仙台市若林区の文化町で、染め物や型紙を展示する「常盤型伝承館」を開いています。

また明治35年（1902年）創業の名取屋染工場は、佐々木邦子さんの弟さんである吉平さんが3代目を継いで、伝統的な注染の技法で手ぬぐいやふきん、風呂敷、暖簾などを作っておられます。現代的なオリジナルの柄のほかに常盤紺型染の文様を現代風に用いた手ぬぐいがあり、仙台みやげとしても人氣です。

私自身は福島県の小さな呉服店に生まれました。祖母は和裁の先生で、母も店で売る着物を仕立てていたため、和服は子どもの時から身近な存在だったのです。衣服に興味があって教職を目指していたことから、被服関係で定評のある東北生活文化大学に入学しました。

家庭科の教材開発について学びたいと思い、宮城教育大学に進学したところ、研究室の先生がちょうど常盤紺型染の研究をなさっていました。先生のご専門は高分子化学でしたので、材料化学的な立場から常盤紺型染の型紙の保存と復刻について研究されていたため、教材開発の研究と並行して、型紙文様のデジタルデータベース化の研究に携わることになりました。

当時はパソコンの性能とともに、スキャンしたデータの解像度は低く、拡大するとギザギザが見えてしまいました。画面上で型紙の欠損部分を補修したり、柄を種類別に分類したり、デジタル化した型紙文様から型紙を復元するなどして研究を進めているうちに、母校で教員になることができたわけです。今は学生たちに裁縫や染色などを教えながら、型紙の高精度なデータ化や、常盤紺型染の衰退後に仙台で多数製造された浴衣と手ぬぐいの型紙についての研究などに取り組んでいます。

今は日常的に和服を着る方はほとんどいないでしょう。私自身もいつも学内を走り回っているため、普段は洋服です（笑）。しかし和服には製糸・紡績、デザイン、織り、染め、仕立て、着こなしなど、日本の伝統文化が集約されていることは言うまでもありません。学生たちの興味も洋服に偏りがちですが、近年の浴衣ブームや手ぬぐいブームのおかげもあって、和服や伝統染色を専門的に勉強したいという学生もいます。

今後は、収録したデジタルデータの使い方を工夫しながら常盤紺型染を未来に伝えていきたいというのが私の希望です。

常盤紺型染に限らず、庶民の服飾史には、まだまだ分かっていないことがたくさんあります。市民の皆さんにも興味を持っていただければ幸いです。

（取材＝2015年8月20日／東北生活文化大学　大学1号館1階　第1被服学研究室にて）

東北生活文化大学　家政学部　准教授
専門＝染色学

川又　勝子 先生

《プロフィール》（かわまた・しょうこ）福島県生まれ。東北生活文化大学家政学部卒業。宮城教育大学大学院 教育学研究科修了。修士（教育学）。東北生活文化大学助手、講師を経て、2015年より現職。

懸賞

図書カードを当てよう！ まなびめクイズ

正解者の中から抽選で3名様に図書カード1000円分をプレゼント

Q.2　型紙を丈夫で扱いやすいものとするために何という補強を施した？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。阿部恒之先生の記事もご覧ください。

応募方法

はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え2つ、⑦「まなびめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。

※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2015年11月30日 当日消印有効

Web版はより多くの情報を
随時更新しています。
まなびのめ 検索
http://www.manabinome.com/

10 OCT

東北の土木遺産 ～近世から近代への技術変遷を見る～ 東北の地形の成り立ちから見る社会インフラ整備の限界と技術革新
10月24日(土) 15:00▶16:30
講　師　後藤　光亀（東北大学）　無料　要申込
場所 仙台市市民活動サポートセンター 6階セミナーホール　定員 80名
主催者 学都仙台コンソーシアム・東北大学　問合先 TEL 022-795-3925
URL http://www.gakuto-sendai.jp/

東北の土木遺産 ～震災から学ぶ社会インフラのあり方～ 強靭なインフラとは、しなやかなインフラとは
10月24日(土) 17:00▶18:30
講　師　後藤　光亀（東北大学）　無料　要申込
場所 仙台市市民活動サポートセンター 6階セミナーホール　定員 80名
主催者 学都仙台コンソーシアム・東北大学　問合先 TEL 022-795-3925
URL http://www.gakuto-sendai.jp/

市民公開講座 No.325「導きのデザイン」
10月30日(金) 18:00▶19:30
講　師　鹿野　守（東北工業大学ライフデザイン学部准教授）　無料　申込不要
場所 東北工業大学一番町ロビー　4階ホール　定員 60名
主催者 東北工業大学　問合先 TEL 022-723-0538
URL http://www.tohtech.ac.jp/

東北大学サイエンスカフェ　第121回：光のちからで生体を見る・測る・治療する ～光を用いた生命科学の最前線～
10月30日(金) 18:00▶19:45
講　師　中林　孝和（東北大学大学院薬学研究科教授）　無料　申込不要
場所 せんだいメディアテーク　1階オープンスクエア
主催者 東北大学　問合先 TEL 022-217-5132
URL http://cafe.tohoku.ac.jp/

【産学連携講座】粉体プロセスがつくる水素エネルギー
10月31日(土) 13:00▶14:30
講　師　加納　純也（東北大学）　無料　要申込
場所 仙台市市民活動サポートセンター 6階セミナーホール　定員 80名
主催者 学都仙台コンソーシアム・東北大学　問合先 TEL 022-795-3925
URL http://www.gakuto-sendai.jp/

第6回館長講座「博物館で起きた事件」
10月31日(土) 13:30▶15:00
講　師　鷹野　光行（東北歴史博物館館長）　無料　申込不要
場所 東北歴史博物館3階講堂
主催者 東北歴史博物館　問合先 TEL 022-368-0106
URL http://www.thm.pref.miyagi.jp/

人材活用論―自分に与えられた役割と能力（才能）を生かせる環境について―
10月31日(土) 15:00▶16:30
講　師　吉田　勝廣（仙台青葉学院短期大学）　無料　要申込
場所 仙台市市民活動サポートセンター 6階セミナーホール　定員 60名
主催者 学都仙台コンソーシアム・仙台青葉学院短期大学　問合先 TEL 022-369-8000
URL http://www.gakuto-sendai.jp/

11 NOV

英文法に再挑戦：英会話で役立つ文法
11月7日(土) 13:00▶14:30
講　師　川辺　博（聖和学園短期大学）　無料　要申込
場所 仙台市市民活動サポートセンター 6階セミナーホール　定員 80名
主催者 学都仙台コンソーシアム・聖和学園短期大学　問合先 TEL 022-376-3151
URL http://www.gakuto-sendai.jp/

まちなか美術講座　「ピカソの魅力」
11月7日(土) 13:30▶15:00
講　師　加野　恵子（宮城県美術館学芸員）　無料　申込不要
場所 東北工業大学一番町ロビー　4階ホール　定員 60名
主催者 宮城県美術館×東北工業大学一番町ロビー　問合先 TEL 022-221-2111
URL http://www.pref.miyagi.jp/site/mmoa/

しろ・まち講座「展覧会（宇和島伊達家の名宝）のみどころ紹介」
11月7日(土) 13:30▶15:00
講　師　仙台市博物館学芸員　無料　申込不要
場所 仙台市博物館ホール　定員 200名
主催者 仙台市博物館　問合先 TEL 022-225-3074
URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum/

※登場者（講師、演者、担当者）については敬称略

参加体験記

「学び」イベントに行ってきました

〈徳川家康没後400年記念〉
■「徳川将軍家と東北　―泰平の世の歴史と名宝―」

2015年8月8日（土）　11:00～　東北歴史博物館　特別展示室

期間中の毎週土曜日11時から展示解説があるとのことで、それに合わせて行きました。
展示内容は、「第一章　天下人家康と東北」「第二章　東照宮の光輝」「第三章　徳川将軍家の遺宝」「第四章　新たな時代へ」の4つのテーマから構成されていました。
まず、ご神体に準ずるものとされる「歯朶（しだ）具足」と呼ばれる甲冑を拝見すると、次は宮城県指定「木造 伊達政宗椅像」。普段は松島瑞巌寺に安置されていますが、解説子によると「普通は本殿の前で、腰を屈めて見るとず～っと先の向こうの方にいる」のが解る程度とか。だからケースの中でなくナマで、しかも360度ぐるっと見ることができるのは「近年にない展示」なのだそうです。幻の「百万石のお墨付き」やキリシタン禁制など、徳川将軍家とは因縁浅からぬ政宗が、この威風堂々とした姿で東北を堅く守護してきたようにも思えてきました。
日光東照宮からはいずれも複製（原品は国宝）ですが、有名な「三猿」と「眠猫」の部分がやってきました。特に三猿では普段は絶対解らないウラ側も横から覗いて見ることができ、「猿のお尻がどうなっているかがよく解る」機会を得ました。また、国宝に指定されている本殿の大扉は、今回くらいでしか見られないだろうとのことで、梅の金蒔絵が圧巻でした。
幕末関連では、15代将軍慶喜が大政奉還について仙台藩13代藩主伊達慶邦に宛てた下問状が展示され、その末尾には「忌憚なく言ってほしい」旨が書かれており、こういう書状の存在も初めて知ることができました。
その他、印象に残ったものとしては、ご存じ上杉軍を象徴する「毘」の旗の大迫力、凛とした天璋院篤姫の肖像、皇女和宮が着用したと伝えられる帷子の金糸銀糸の艶やかさ（これも「目にできるのは非常にラッキー」とのことでした）、奥羽越列藩同盟旗に漂う悲壮感などが挙げられます。
この展覧会には国宝8点、国重文10点を含む計208点が出展されていました。　（塩釜市　桃配山太郎）

■睡眠カフェ（全4回）～眠りを良くするトレーニングコース～
講師：東北文化学園大学医療福祉学部准教授　佐藤　俊彦　氏
2015年8月3日（月）18:30～20:00　エル・ソーラ仙台　研修室

身近に不眠症で悩んでいる人が居たので、何か力になれることはないかと思い今回のセミナーに参加しました。
最初に「睡眠チェックシート」というものが配布され、その日昼寝をしたか・何時にベッドへ入ったか・起きた回数・起床時間・睡眠時間の合計などを毎日、細かに記録します。これで、よく眠れたと感じた日はどういう行動をしていたか、眠りにくかった日の原因に何があったか、といった睡眠効率を分析するのです。
「睡眠時間の理想は8時間」というのをよく聞きますが（8時間神話とも）、実際は個人差があるので、人によって異なるそうです。必ずしも8時間がベストとは限らないので、一人ひとり自分の最適な睡眠時間を見つけていくしか無い、そのためにも睡眠日誌で分析して自分に最適な時間を見つけていこう、とのことでした。
先生のお話の中では「（寝だめについて）眠りの貯金は出来ないが、借金（疲労）は残る」「枕と喧嘩をしないこと。眠れないときは思い切って氣分転換をする」といった言葉が印象に残りました。
他にも講義の中で、腹式呼吸や筋弛緩法・自律訓練法などを練習してみましたが、実際にやってみると体がリラックスし、頭がぼーっとして程よいダルけと眠氣を感じることができました。
今回睡眠カフェでは、自身の眠りについての分析・睡眠についての基礎知識を学ぶ講義・リラクセーション技法の実践といった3つのパートから、睡眠について学ぶことが出来ました。全4回のコースでしたが、1週おきの開催・時間帯も平日の18：30～と非常に参加しやすかったです。
カフェに参加したことで、今後は悩んでいる人に的確なアドバイスを出してあげられたり、自分自身も生活習慣の改善につなげられたりできれば、と感じました。
（岩沼市　その後、夏用寝具を相手にプレゼント）

■食品イノベーション特別講座（2）「和食の良さと宮城の魚介類を学ぼう！」
食品イノベーション特別講座（3）「日本は美味しい！世界へはばたく日本の発酵文化」
講師：宮城大学教授　西川　正純　氏
宮城大学准教授　金内　誠　氏
2015年7月25日(土)13:00～14:30、15:00～16:30　仙台市市民活動サポートセンター

“食”は人生最大の楽しみです。
宮城大の先生のユウモア溢れるお話で半日楽しい時間でした。
食べるだけでなく“医食同源”を学びました。
今、1月に1回料理教室にいっています。（3年になります……）
まなびは楽しいですね！　（塩竈市　SIOKAI）

読者の声

Voice Park

読者と編集部のキャッチボール

第29号　北欧に学ぶ

毎回テーマをもった先生達のお話にとても興味があり面白く感じています。デザインで世界を変えることが出来ることがすばらしいですね。
（仙台市太白区・51歳　男性）

編：これまでのテーマはすべて「当たり」だったと自負しています。どの分野の研究も、実は私たちの身近なこととつながっている、ということでもあります。

高橋まゆみ先生のデンマークの「フォルケホイスコーレ」という教育制度にはびっくりしています。国民大学という「教育」の力の入れ方に感銘を受けました。　（柴田郡柴田町・63歳　女性）

編：「フォルケホイスコーレ」について私も初めて知り、新鮮な驚きがありました。日本とはまた違う、自由な感性を育み人間として成長できる場だと感じます。

「名著への旅」で紹介された『井上ひさし　子どもにつたえる日本国憲法』を読みました。とても分かりやすく、ためになりました。
（仙台市宮城野区・34歳　女性）

編：早速お読みになったのですね。今後の「名著への旅」もお楽しみに。

他国や他者の良いと思われる点に目を向け、学び、活力ある社会づくりに役立つと考えます。　（仙台市太白区・45歳　男性）

編：「人の振り見て我が振り直せ」ですね。新たに見つけた他者の良いところを、それぞれに適した形で活かしていくのが理想です。

私の行く図書館にも、もちろん「まなびのめ」が設置されています。「まなびのめ」の輪が、もっともっと広がればと思います。
（石巻市・35歳　男性）

編：季節ごとに街が「まなびのめ」でいっぱいになれるよう、日夜努力しております。

その他のお便りと編集部からのコメントはWeb版でご覧いただけます。

参加体験記

「学び」イベントに参加したら感想を書こう！

読者の皆様が参加された、「学び」イベントの感想やレポートをお待ちしています。
掲載採用させていただいた方のうち毎号1名様に1000円分の図書カードを進呈！
ご投稿いただいた全員にもれなく粗品をプレゼント！
※採用の可否、図書カード当選者は編集部に一任いただきます。
■ 投稿方法　はがき、FAX、E-mail、Web版投稿フォームにて受付。
■ 投稿先　「まなびのめ」編集部　※詳細は最終ページをご覧ください。

第29号 まなびのめクイズの正解発表!!

「まなびのめ」第29号懸賞クイズの正解は下記のとおりです。

Q.1 障がい児のために一般教員と別に配置される生活指導教諭を何という？
答え　ベダゴー

Q.2 ヘルシンキは2012～14年、国際的デザイン団体から何に選ばれた？
答え　世界デザイン首都

図書カード1,000円分　図書カード1,000円分　図書カード1,000円分

今号も「まなびのめ」クイズを実施しております。正解者の中から抽選で3名様に図書カードが当たりますので、奮ってご応募ください!! ※詳細は研究者インタビューページをご覧ください。

「まなびのめ」配色法：襲色目（かさねのいろめ）
第30号・秋／「紫苑」（si-on）

これからの主な

「学び」イベント

有料　無料　要申込　申込不要
▲このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。

11 NOV

オフィスデザインと組織の有効性
11月7日(土) 15:00▶16:30
講　師　鈴木　好和（東北学院大学）　無料　要申込
場所 仙台市市民活動サポートセンター 6階セミナーホール　定員 80名
主催者 学都仙台コンソーシアム・東北学院大学　問合先 TEL 022-264-6340
URL http://www.gakuto-sendai.jp/

刑法における因果関係を考える
11月7日(土) 17:00▶18:30
講　師　中村　雄一（東北学院大学）　無料　要申込
場所 仙台市市民活動サポートセンター 6階セミナーホール　定員 80名
主催者 学都仙台コンソーシアム・東北学院大学　問合先 TEL 022-264-6340
URL http://www.gakuto-sendai.jp/

「仙台・江戸学」第9期「大崎八幡宮石の間の天井画」
11月13日(金) 13:30▶15:00
講　師　樋口　智之（仙台市博物館学芸室長）　有料　要申込
場所 大崎八幡宮　祭儀棟　定員 100名
主催者 「国宝大崎八幡宮　仙台・江戸学」実行委員会　問合先 TEL 022-234-3606
URL http://www.oosaki-hachiman.or.jp/edogaku/

市民公開講座 No.326「化学物質の環境リスク―リスクの大きさの考え方―」
11月13日(金) 18:00▶19:30
講　師　内田　美穂（東北工業大学工学部准教授）　無料　申込不要
場所 東北工業大学一番町ロビー　4階ホール　定員 60名
主催者 東北工業大学　問合先 TEL 022-723-0538
URL http://www.tohtech.ac.jp/

新たな時代に社会を動かすものとは～ ファイナンス・交流・情報（3）「新たな情報活用時代の到来 ～情報を活用したビジネス変革と顧客との関係構築～」
11月14日(土) 13:00▶14:30
講　師　藤原　正樹（宮城大学教授）　無料　要申込
場所 仙台市市民活動サポートセンター 6階セミナーホール　定員 60名
主催者 学都仙台コンソーシアム・宮城大学　問合先 TEL 022-377-8693
URL http://www.myu.ac.jp/site/renkei/gakutkoz2015.html

ヒトとキカイの間（3）「空間と情報～実空間と仮想空間との融合による新しい環境の創出～」
11月14日(土) 15:00▶16:30
講　師　蒔苗　耕司（宮城大学教授）　無料　要申込
場所 仙台市市民活動サポートセンター 6階セミナーホール　定員 60名
主催者 学都仙台コンソーシアム・宮城大学　問合先 TEL 022-377-8693
URL http://www.myu.ac.jp/site/renkei/gakutkoz2015.html

東北大学リベラルアーツサロン　第38回：星の王子さまから現代人へのメッセージ
11月20日(金) 18:00▶19:45
講　師　小林　文生（東北大学大学院国際文化研究科教授）　無料　申込不要
場所 東北大学附属図書館1階
主催者 東北大学　問合先 TEL 022-217-5132
URL http://cafe.tohoku.ac.jp/

オンキャンパス社会人講座「作家は何を食べてきたのか」（全2回）
11月21日(土)・12月5日(土) 10:30▶12:00
講　師　大木　泉（仙台白百合女子大学人間学部グローバル・スタディーズ学科教授）　無料　要申込
場所 仙台白百合女子大学5号館3階531室　定員 40名
主催者 仙台白百合女子大学大学広報室　問合先 TEL 022-374-4475
URL http://sendai-shirayuri.ac.jp/

健康住宅設計法
11月21日(土) 13:00▶14:30
講　師　野崎　淳夫（東北文化学園大学）　無料　要申込
場所 仙台市市民活動サポートセンター 6階セミナーホール　定員 60名
主催者 学都仙台コンソーシアム・東北文化学園大学　問合先 TEL 022-233-3451
URL http://www.gakuto-sendai.jp/

あなたの目は大丈夫？ ～目からウロコの目の話～
11月21日(土) 15:00▶16:30
講　師　浅野　浩一（東北文化学園大学）　無料　要申込
場所 仙台市市民活動サポートセンター 6階セミナーホール　定員 60名
主催者 学都仙台コンソーシアム・東北文化学園大学　問合先 TEL 022-233-3451
URL http://www.gakuto-sendai.jp/

※登場者（講師、演者、担当者）については敬称略